

令和6年度 第2回須崎市総合教育会議 議事録

1. 日 時：令和7年2月14日（金）午前10時02分から午前10時55分

2. 場 所：須崎市総合保健福祉センター 3階 研修室

3. 出席者等：市 長：楠瀬 耕作

教育長：竹内 新

委 員：尾崎 恵子、松岡 健夫、岡田 和美

事務局：教育次長 西村 浩司

生涯学習課長 福本 博一

子ども・子育て支援課長 市川 ゆかり

学校教育課長 中西 司

学校教育課長補佐 松本 佐和

学校教育課主幹 岡本 恭一

学校教育課指導主事 國澤 友美

学校教育課指導主事 角 彩乃

4. 開会

【学校教育課長補佐（以下、事務局）】

・市長からのあいさつをお願いします。

【楠瀬市長（以下、市長）】

・今年度の2学期から Make “IT” Fun を進めてきている。前さいたま市の教育長細田眞由美先生をお迎えして体制を作り上げてきている。

・昨日、須崎小学校に市議会の委員会の皆様と視察に行ったが、Make “IT” Fun に沿った取り組みをしており、非常に心強く思った。しかし学校によって濃淡があり、一番進んでいるのは須崎小学校と聞いている。まだまだ取り組みができていない、あるいは途中である学校もあると聞いている。その中で英語とプログラミング言語を学ぶ機会を保育園から子どもたちに与えて、まずは自ら学んでいく心構えを育んでいこうという取り組みがこの Make “IT” Fun である。

・ Atelier for KIDs や議会で承認を得られれば来年度予算では、須崎市独自で中学生の海外短期留学も実行できると考えている。

・学校施設整備も力を入れてやっていくということで、施設改修もふるさと納税を原資にして学校教育あるいは子どもたちの環境改善に力を入れていきたい。

・ゴールはないが、教育委員の皆様のご指摘、ご指導をいただきながら今後ともこの流れをぜひ進めていきたい。

【事務局】

- ・取り組みについて担当課の課長から説明をしてもらおう。

【担当課長（以下、事務局担当課長）】

- ・担当課長より説明。

【事務局】

- ・質問や意見をお願いしたい。

【教育次長】

- ・補足。学校教育課長から説明があったが、3番④に生きた外国語の推進というのがある。市長も触れられたが、須崎市独自の海外フィールドワーク（海外短期留学）事業の予算が付いたため、より多くの中学生に外国語に親しんで、目的をもった学びのあるフィールドワークを実施していきたい。
- ・委託先もまだ決まっていないが、内容については事務局でつくっている。特に細田真由美先生が過去に40回ほどそのような事業に携わっているということもあるため、今の時代に適合した内容のフィールドワークの準備を進めている。
- ・4番のアントレプレナーシップ、起業家精神の育成ということで、須崎市ではわくわくチャレンジ in 須崎（以下、わくチャレ）というキャリア教育を中心とした取り組みをやってきた。当初はかなり内外からも評価を受けた取り組みだったが、時代の変遷とともに、起業家精神も大事ではないかということもあり、わくチャレについてはこちらに移行していく。
- ・わくチャレ自体は今年度で終了させ、アントレプレナーシップの方の取り組みへ進めていきたいということで、令和7年度に向けて内容について協議を進めている。これについては市長の強い後押しも必要になってくる。市内商工会、JA、銀行、中小企業とタイアップして子どもたちとコラボした形の起業家精神の学びを進めていきたいと思っている。
- ・次のページの高等学校・大学との連携はここに記載している通り。DXにおいては、全国でも有名な山本先生に入っていたいただいて4年目となるが、ご指導のもと随分と進められている。
- ・Make “IT” Fun の取り組みの中で、ラーニングコモンズというのが最初にあるが、学びの空間づくりにおいて、今須崎小学校、朝ヶ丘中学校で整備を進めて実践をしているが、そのほかの学校もそれぞれの学校のニーズに合う形で展開していきたいと思っているため、機会があれば教育委員の皆さんも見学をしていただけたらと思う。
- ・保育園については、保小の架け橋としてアプローチカリキュラムやスタートカリキュラムという取り組みは進めてきたが、実際的にしっかりとしたプログラムを策定することを国や県からも言われているため自治体として整備を進めていきたい。

【事務局】

- ・教育次長から説明もあったが、質問やご意見をお願いしたい。

【委員】

- ・ラーニングコモンズは須崎小学校と朝ヶ丘中学校が実践しているということだが、令和8

年度に向けて、他の学校での具体的な計画はできているか。

【教育次長】

- ・そういった学びの空間を確保する空き教室等があるのかということや、図書室等の教室以外の学べる空間をどのように作っていくか、というように学校のニーズに合ったものを話し合いながら進めていきたい。
- ・現在須崎小学校で実施している形をコピーして展開していくのではなく、小規模校に見合った形で展開していきたいと考えている。
- ・令和8年度には統合もあるため、統合が予定されている学校については少し考え方が違う。まだ青写真の段階で止まっている。

【委員】

- ・具体的にはまだ検討中ということか。

【市長】

- ・ハード面の整備は容易いが、実際に動かす先生方の理解が前提に無くてはいけない。須崎小学校は校長先生が非常に熱心で、理解がある。中にはそういう理解がいただけない校長先生もいるということで、最初の条件整備として先生方の理解を得る作業が必要かと思う。

【教育長】

- ・ラーニングコモンズをご覧いただくと、すごくきれいな空間だということはお分かりいただけるわけだが、今やろうとしていることは、あのきれいな新しい空間がなければできないというものではない。これまで通りの教室でも新たな学びというのは当然できるものであるため、空間整備はできれば整備するが、それが回ってこない学校は新たな学びを実施しない、ということではないと思っている。

【委員】

- ・先生、校長先生の理解が揃っていないと市長が言われたが。

【教育長】

- ・少し端的すぎる気もする。頭では理解しているが、体がついていかない等により、管理職がまだ先生方にきちんと伝えられていないといった様々な段階・濃淡の違いがあるのだと思う。

【委員】

- ・聞いていて思ったが、自分がイメージするときに、例えばこういう部屋で寝そべって学習する子もいれば、図書館から本を引っ張ってきて学習をする子もいる、パソコンで調べたりする子もいるというような空間づくりなのか。

【教育次長】

- ・今、国も推し進めている個別最適な学びというものが学習指導要領に明記されているが、一斉型授業を転換していくことによる、一人ひとりの子どもの力をつけていく学びに転換を図っているということなのだが、そこでよく言われるのが複線型の授業や自由進度

学習、他者参照をする、協働的な学びをしていく、子どもたちに学び方を教えるといった様々な視点で授業の在り方を模索して実践をしてもらっている。

- ・一斉型授業が一切ダメということではなく、一人ひとりの子どもたちのニーズ・力に合う、そして子どもたちが学び方を習得する。そのためにどういった教育が必要かを考える中で、空間があればより意欲的、創造的に学びを進められるという思いで空間づくりを進めている。教育長も言ったように、そういう空間が無いといけないというわけでもない。デジタルを使って個別最適な学びもできる。ケースバイケースで授業の学び方を考えるということで先生方は理解と実践を努力をもらっている。狙いは何かというと、学習指導要領に示された個別最適な学びをどういう形に落とし込んでくるかチャレンジをしているということである。

【委員】

- ・ゆくゆくは学年を解体して、学びの空間で多種多様な学年が自分の進めたい学習に取り組んで、探究していくような展開もあるということか。

【教育次長】

- ・はい。現在須崎小学校も行っている。

【市長】

- ・昨日は1年生と5年生が同じところで行っていた。
- ・ある小学校で、ある方の子どもさんが「学校が面白くない」と言っている。聞いてみると、先生が一斉型で教えるところよりもはるかに先へ進んでおり、授業中に待たなければならなくなっている。だから面白くない。と言っていると聞いている。やはり学校へ行くのは楽しくないといけないと思う。一斉型を否定するわけではないが、そういうものも取り入れていくべきかと。

【委員】

- ・最終的なゴールは素晴らしいと思うが、現場で日々やっている担任の先生方は大変ではないかと思う。

【市長】

- ・昨日の1年生担任の先生は素晴らしいアプローチをしていた。

【教育次長】

- ・こういった転換の時期というのは、先生方もどういう形が向こうに待っているのだろうと描きにくい。だからまずはチャレンジしていく。そうして実践を積み重ねていく中で、学びたい子はもっと学べる、おいて行かれた子たちは学び直しができる、というように個別最適にできるようにしていきたい、としていく取り組みだと受け止めていただきたい。
- ・何かをやってすぐに答えが出てくるというものでもない正解のない世界になってきた。先生方のこれまでのやり方はどちらかというと単純。こう教えました、で終わりではなくずっと疑問を持って探究するような子どもたちをつくっていきたい。そのためにどういう学習を仕組んでいくのか。今は始まったばかりなので、県内でもチャレンジをしている学

校はあるが、調べても多くはない。その中で須崎は先取をして失敗を恐れず前に行こうとしている。先生方も前例のない中で不安感を抱きながらやっている。そこを教育委員会と一緒にになって乗り越えてもらいたい。そういう仕組みを作っているところである。

【教育長】

- ・私も昨日市長とともに須崎小学校へ視察に行った。校長会でも繰り返し、まずは試しに複線型の授業をやってみてほしいと言っている。その中で須崎小学校での実践を見せてもらったが、校長からかなり前向きな説明があり驚いた。一斉授業と違い、読めば分かる、考えれば分かるという子どもたちはどんどん自分で進めるのだと。だから教員の準備としては、その子たちのやることが無くならないように勉強する内容を準備しておけばそれで良いため、かえって新しいやりの方が、配慮が必要な子どもに多くの時間が割けるようになり自分たちも驚いているという話があった。実際実施してみるとうまくいっているのではないかという印象を受けた。

【市長】

- ・ぜひ学校教育課で機会をつくり、教育委員さんに一回見ていただけたらいい。

【委員】

- ・イメージとしては、去年映画でやっていた「夢見る学校」のような系統なのかと想像しているが。

【市長】

- ・埼玉県の前橋市を見てきたが、全国で一番進んでいるのではないか。その須崎ではじまりが須崎小学校。前橋市は統一ではなく、それぞれの学校でそれぞれの取り組み方で行っていた。

【委員】

- ・職場の先生方から「こういう風にやってみたい」という声が出て高まっていけば、トップダウンにはならないが、上からだとやらされ感をすごく感じると思う。そこがうまく噛み合って、良かった実例を公開して見せる機会をたくさん取れば取り組みのヒントになるかもしれない。

【事務局担当課長】

- ・事業指定を受けているわけではないが、須崎小学校は自ら公開授業をし、いろいろな方に見に来てもらっているということも言っていた。校長先生もいつ来てもいいと言っている。

【教育次長】

- ・実際来週も土佐市の第一小学校から6名ほど来る。そういった効果が出ている。どうしても何かやるときには教育委員会としては事業を組まなければならないため、お願い事も多くなり、そのお願いがまた負担になるということにはなる。一回やってみたら面白い、こういう教育の方法があるのかと実感してもらうことが大事だと思う。
- ・こういった事業を進めるにあたってプロジェクトチームをつくり各校から人を募り、月に

1 回程度のペースで話し合いをしているが、先日はその会のメンバーにさいたま市に研修に行ってもらい、取り組みを間近で見学した。先生方も他者から学ぶという姿勢で広げていきたいと思っている。教育委員の皆さんもぜひ見ていただきたい。

【委員】

- ・市内のほかの先生にもどんどん見に行ってもらって。小学校統合もあるが、その時に一斉に始められるようになっていないと大変なことになる。そこを目途にやっていかないといけない。

【市長】

- ・そういう意味では保育からの連携が大事。

【教育次長】

- ・担当にもいろいろ考えてもらい、例えばデジタルで使うソフトについても、各学校でばらばらであると、朝ヶ丘中学校に来た時に「それ使ったことない」ということにもなってくるため、校長先生同士で歩調を合わせていただいて連携を取りながらやってもらいたいと思う。
- ・今日はお示しができなかったが、個別最適化を狙うデジタルコンテンツを須崎市はかなり重点を置いて授業を進めている。

【市長】

- ・戸田市は何年もの実績があって、埼玉県内の先生が戸田市に行きたいと思うようになっていくということで、須崎市もそういう状況になればいいなと思っている。

【委員】

- ・楽しかったら進められるけど、苦しかったら…。

【市長】

- ・それは苦しいと感じる先生方もいると思う。私が進めようとしている Make"IT"Fun の取り組みに賛同しない教員は、皆本市から出て行っていただくのがよい。ただ、昨日の先生を見ると、そんなに苦しんでない。工夫されている。日々自分で改善されているのだと思う。

【委員】

- ・すごく教材研究をたくさんして準備をされているのだろうなと想像できる。
- ・海外フィールドワークは、期間はどれぐらいか。

【事務局担当課長】

- ・9日です。移動日が2日で、実質7日向こうで研修する。

【委員】

- ・どこの国かはまだ決まっていないのか。

【事務局担当課長】

- ・これから提案を受けて決定したい。

【委員】

- ・以前に夏休みに2週間とかで海外研修をやっていたが、あれの流れか。

【事務局担当課長】

- ・高幡広域市町村事務組合の事務局がやっており、市内で三人しか行けないという枠があったが、市長のご理解により、次年度から須崎市独自でもやろうということになった。

【委員】

- ・何人ぐらい行かせようと思っているのか。中学生か。

【教育次長】

- ・行く場所によって一人にかかる費用が違うということもあるが、何を学ぶのか、どういう力をつけるのか。9日間だが、前後の研修もあるため、そういうことも含めて考えている。業者に投げかけなければならないため、業者がどれだけこちらの要望に沿ったものを回答してくれるのかも含めて考えたときに、だいたい人数や学ぶ内容が決まってくる。大枠は決まっているが、これからそこを詰めているところである。
- ・短期留学に行くことが目的ではない。何を学んでくるか、委員会の方で協議をしているところである。

【事務局】

- ・対象の学年に関して、中学生3学年には声をかけるようにしている。現在の、小6、中1、中2の学年には周知をする予定をしている。

【委員】

- ・市が全部負担ということは個人負担はなしか。

【教育次長】

- ・まったく負担なしは難しいかもしれないが、どんな家庭でも手を挙げやすいような状況をつくっていきたいと思っている。

【委員】

- ・ぜひそうしてあげたい。

【委員】

- ・集合保育、土曜日1日保育は毎週か。

【事務局担当課長】

- ・はい。毎週土曜日に実施している。市内7園あり、今までは半日で終わっていた。それを一か所にして、そこで一日保育を行っている。

【委員】

- ・令和6年度では1日平均何人ぐらいか。

【事務局担当課長】

- ・差があり、最大では30人くらい受け入れがあった。少ないときは20人ぐらいだった。時間もお昼で帰られる方もおり、夕方帰られる方もいる。

【委員】

- ・それは翌月に計画を立てるのか。

【事務局担当課長】

- ・今は手前に申し込みを受けている。申し込みを受けて先生方の調整・配置もしなければならぬため。予定変更があつて使わない、ということもあるがそこは対応させてもらっている。基本受付をして受付に基づいて保育をしている。

【教育長】

- ・総合教育会議の議事録についてだが、現在議事録は作成しているが、対外的な公表はしていない状態である。定例教育委員会も議事録を公表しているため、同じ扱いにしてかまわないか。

【委員】

- ・かまわない。

【市長】

- ・公表した方がいい。

【教育長】

- ・分かりました。ではそのようにさせていただきます。

5. 閉会